

閲覧室には、所蔵検索用端末（OPAC）2台及びインターネットコーナーには、5台のパソコンが設置されている。

・電子ジャーナル等

平成15年度は、長岡技術科学大学を中心とするコンソーシアムには、新外国雑誌目次データベース及びSD（Science Direct）に参加しており、平成16年度には、ACS（American Chemical Society）、AIP / APS（American Institute of Physics/American Physical Society）、IEEE - ASPP（Institute of Electrical and Electronics Engineers Inc. ALL-Society Periodicals Package）及びMath SciNet（American Mathematical Society）にも参加する。

・蔵書

平成15年度の図書受入冊数は、共通図書203冊、教員研究図書242冊及び製本雑誌90冊であり、平成14年度より535冊増加し、蔵書冊数75,312冊となった。

また、各学科・科教員により閲覧室及び1・2階書庫の蔵書の見直しを行い、約6,800冊の図書を抽出し、所蔵スペース確保のため、平成16年度以降に処分を予定している。

**[2] 利用状況**

平成15年度の入館者数、貸出人数及び貸出冊数を平成14年度と比較すると、入館者3,835人増加、貸出人数970人増加、貸出冊数2,008冊増加となっている。

図書館活性化活動としての、ブックハンティング、図書館を利用した授業の実施等による効果があったものと思われる。

なお、平成15年度の月別の利用状況を次表に示す。

表3.5.2 平成15年度における図書館利用状況

月	4	5	6	7	8	9	
入館者数	3,546	4,664	4,231	3,105	811	4,902	
貸出人数	391	505	277	262	48	266	
貸出冊数	672	928	569	667	74	502	
月	10	11	12	1	2	3	合計
入館者数	3,729	3,168	3,436	2,995	3,492	1,902	39,981
貸出人数	249	254	258	279	227	104	3,120
貸出冊数	502	462	575	550	416	275	6,192

**3.5.5 実習工場の整備と利用状況**

**[1] 整備状況**

板、直方体の製作、キー溝加工等に縦フライス盤を使用しているが、内1台は本校設立当初からの物で相当ガタがきており、特にY軸のバックラッシュは1mm近くあり、普通寸法公差が出しにくい状態である。

設備更新をして頂き、その際NC化もして頂き、実習においても高精度な部品加工、及び今までは加工出来なかった形状の部品も加工できる高度な実習を行えるようにして頂きたい。

なお現在実習工場に設置されている設備は以下の通りである。

機械・装置の設備状況(設置年度)

機種	数	年度	機種	数	年度
軽合金溶解炉	1	1967	旋盤	1	1963
可傾式坩堝炉	1	1990	〃	1	1974
高周波誘導溶解炉	1	1997	〃	2	1977
コシキ炉(キュボラ)	1	1966	〃	1	1980
造型機	1	1971	〃	1	1981
シェルモールド造型機	1	1978	〃	2	1990
サンドブレンザ	1	1975	CNC旋盤	4	1992
卓上ボール盤	1	1963	卓上型電気センタドリル	1	1984
〃	1	1983	立てフライス盤	1	1963
〃	1	1988	〃	1	1970
直立ボール盤	1	1963	横フライス盤	1	1987
ラジアルボール盤	1	1963	スロッター	1	1963
両頭グラインダー	2	1963	ホブ盤	1	1977
〃	2	1967	交流アーク溶接機	2	1998
〃	1	1973	〃	1	1987
〃	1	1978	〃	1	1978
〃	1	1984	TIG溶接機	1	1999
研削盤	1	1976	炭酸ガスアーク溶接機	1	1987
〃	1	1978	〃	1	1985
平面研削盤	1	1976	MIG自動溶接機	1	1998
形削盤	1	1967	電気スポット溶接機	1	1980
〃	1	1996	プラズマ切断機	1	1999
金切鋸盤	1	1965	エアー・ハンマ	1	1963
〃	1	1972	空気圧縮機	1	1971
〃	1	1977	ベビコン	1	1979
〃	1	1995	コンプレッサー	1	2000
生型硬度計	4	2000	ハンマードリル	1	2000

[ 2 ] 利用状況

実習以外に機械工学科の卒業研究及び1SM、2SMの特別研究の実験装置等の製作支援及び各学科の卒業研究、特別研究の装置等の製作依頼があった(300件余)。

昨今の技官の定員削減に関して、班の数を減らしてはとの意見があるが、4つの班に分けた場合班人数が10人にもなり、実際に実習を行えない学生が大勢出て、高専の特徴である実践的な技術者の養成は出来なくなる。また別の意見として、班の数はそのまま、教員が実習を受け持てばよいとの議論もあるが、教員側に大幅な定員増を望むべくもなく、むしろ逆に、平成15年度は1名減であった。このような実情をみると、実習の進め方と指導教員のあり方の根本的対策が必要と思われる。

なお、時間割に組み込まれている実習は以下の通りである。

平成十年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日(5、6、7) 3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日(5、6、7) 3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日(5、6、7) 3H

	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H
平成十一年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（5，6，7）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（5，6，7）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H
平成十二年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（5，6，7）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（6，7，8）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H
平成十三年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（6，7，8）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（6，7，8）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H
平成十四年度	1M工作実習1	前期：後期	火曜日（6，7，8）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（6，7，8）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	月曜日（2，3，4）	3H
平成十五年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（5，6，7）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M工作実習3	前期：後期	水曜日（5，6，7）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H
平成十六年度	1M工作実習1	前期：後期	月曜日（6，7，8）	3H
	2M工作実習2	前期：後期	木曜日（5，6，7）	3H
	3M総合実習	前期：後期	水曜日（6，7，8）	3H
	2Z機械工作法実習	前期：後期	火曜日（2，3，4）	3H

### 3.5.6 SCS/MUPの活用状況

#### [1]整備状況

- ・SCSに関しては一部機器の故障に伴う修理を行った。また、録画装置を従来のVTRからHDD、DVDレコーダへ更新した。
- ・MUP事業は平成13年度に終了し、平成14年度から「高等教育IT活用推進事業」が5年計画で発足した。しかし、独立法人化に伴う、事業見直しのため、平成15年度で終了となった。

#### [2]利用状況

- ・平成15年度は56.5時間であり、平成14年度の46時間と比較して、利用状況の改善が見られた。SCSの平成15年度の利用実績の詳細は以下の通りである。

表3.5.3 SCSの平成15年度の利用実績

	回数	時間
講演会	9回	23.5時間
研究打ち合わせ	8回	16時間
会議	3回	9時間
その他	1回	8時間
合計	21回	56.5時間